

イザヤは新しく王位に就くものを「その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊。彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず、耳にするところによって弁護することはない。」(一一章二、三節)と言います。これは「正義」による支配者の出現です。

正義をもたらずのは主なる神を知る知識と畏れの霊だと言われています。知恵と識別は、物事をわきまえ悟り、慎重に考えて実行することです。

そして、この正義は裁きによって明白になります。見えるところから裁くことなくというのとは表面的なことではなく、本質を見抜いてということとです。耳にするところというのは風評だけでなく、時代の風潮や、群集の心理に惑わされることなく裁きを行うのです。

この裁きは秩序をもたらずものです。落ち着いた穏やかな生活です。そして、「弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。正義をその腰の帯とし、真実をその身に帯びる。」(四、五節)と言います。弱者、貧しいものの側に立ち正当で公平な裁きをするのです。旧約聖書の正義の基本はやもめの訴えを退けず、みなしごを飢えさせないことです。為政者にはそれが求められています。ここではそれを口の鞭と唇の勢い、つまり弁論によって執行するというのです。復讐や報復や刑罰によらないのです。驚くべきことに、これは紀元前八世紀に語られた言葉です。絶対的な軍事力と独裁による恐怖支配とは正反

対の裁きである。預言者は神の正義の実現の希望を失わないのです。

さらに、「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をのみ、その子らは共に伏し、獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる」(六〇八節)と預言します。

猛獣が家畜と、乳飲み子が毒蛇と共存する情景です。幼子が蛇の穴に戯れるのはかつて、アダムとエバが蛇にそのかさされて罪を犯したことが暗示されています。自然の理を越えてまでの絶対的な平和の実現が説かれているのです。

このイザヤの言葉は、イエス・キリストを指し示すものとして大切にされてきました。アドベントの期間には必ず読まれるものです。

その主イエスはマタイによる福音書の山上の説教の初め(五章三〇一節)に「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」と語られました。これは主イエスの口の鞭であり、唇の勢いです。穏やかに語りながら、人の根底を変えることの

できるものです。この主の言葉は、真の正義の実現、真の平和の実現を、人の魂の奥底に起こさせるものです。

イザヤはその日が来ることを宣言しています。新約聖書はその実現を語ります。

わたしたちはこの日を主イエスが実現してくださったことを受け止めることができます。主イエスの生涯全体がそうです。特に山上の説教によって、われらの霊の内に実現したのです。主イエスは心の貧しいもの、悲しむものを、柔和、義、憐み、心の清さ、平和の実現を求めるものを祝福されたのです。そして、神の子である主イエスは罪人が赦しによって義とされることを十字架の死をもって実現された。それが神の義です。神は十字架によって罪人を赦された。それを信じる者を義とされたのです。

その日は主イエスによって実現された。アドベントのメッセージを心静かに受け止めたと思います。

(十一月二七日アドベント第一主日礼拝)